☜昨年末より事務局のメールが変更しています。npo_inch@yahoo.co.jp に変更しました。よろしくお願いします。☜
☜ホームページも　http://www.npo-inch.ppmusee.org/index.html　に変更しています。☜

ナマステ

特定非営利活動法人
自然文化誌研究会 会報誌
154 号
2024 年 5 月 20 日発行号

『こすげ冒険学校』のご案内！！

小菅村の自然と文化を満喫しながら過ごす 6 泊 7 日の長期キャンプです。川遊びでは飛び込んだり、魚がいっぱいいる淵で泳いだり、思う存分に遊び続けよう！！寒くないように焚き火をしながら、お風呂も沸かしておこう。毎晩星を眺めながら眠くなったら寝てしまおう！！一緒に山と村の暮らしを探検する７日間！何をやるかは自分の気持ちと天気によって決まるかな！

日 程：8 月３日（土）～8 月９日（金）６泊７日
場　所：山梨県北都留郡小菅村　『清水バンガロー』
　　→（山梨県北都留郡小菅村 5,413 番地）
宿　泊：テント（一人用で個人就寝）で寝袋
対　象：小学校３年生～中学校３年生　25 名
指導者・ｽﾀｯﾌ：村の人々と東京学芸大学の大学生など
参加費：49,500 円
備　考：全日程の参加を原則とし、途中からの参加等は不可とします。
申し込み方法：６月 21 日（金）必着（締め切り厳守になります）に事務局まで、氏名（ふりがな）・学年・住所・連絡先を記入の上、メール or ハガキでお申し込みください。参加者が定員を超えた場合は抽選になります。

※抽選になった場合について：
①参加の当否については 6/28 日（金）までに郵便 or メールで通知します。
②兄弟・姉妹間での参加の交代等は無しとします。

National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構
「子どもゆめ基金助成活動」
体験の風をおこそう

令和６年度「子どもゆめ基金」の助成を受けて開催します。

2024 年　「冒険学校むらまつりキャンプ」報告

今年も村長をやらせていただきました　鈴木英雄（自然文化誌研究会理事）

今年も５月３日から５日までの２泊３日で、小菅村のいつものキャンプ場でキャンプを実施しました。この時期のキャンプは親子での参加を認めています。コロナ明けの昨年の参加者は３組の親子（大人４人）を含めた総勢 19 名でしたが、今回は８組の親子（大人 11 人子供 12 人）と単独参加の子供 11 名の参加者総勢 34 人というたくさんの参加者に恵まれました。子供たちはみんな仲良しで、はじめて会った子供たちでもまるで兄弟のよう。スタッフで来てくれた方は高校１年生から大ベテランまで、総勢 35 名。実に充実したキャンプになりました。

たくさんの参加者とスタッフで、チーム台所とチーム車両には苦労を掛けました。よく頑張ってくれました。

コロナの間、ずっとできなかった源流祭りが今年やっと再開され、会場の広場には多くの出店やパフォーマンスでにぎわいが戻ってきました。私たちも昼間は源流祭りに繰り出し、現地のグルメを堪能しました。運営面では多くの人出の中で迷子になることが心配だったので、子供達にはマンツーマンで学生のスタッフに随行してもらうことにしました。行くときも一緒、お祭り広場では常に一緒、帰る時も一緒ということにしました。大人の皆さんにも、子供たちの心配を減らして、自由に楽しんでもらうことができました。お祭りから帰ってくれば、天気が良くて昼は暑いくらいでしたから、ためらいなく川で遊びました。川の水温を入る前に計ってみました。11.9°Ｃでした。とても冷たいです。長くは入っていられませんから、川からあがれば、五右衛門風呂に入ります。焚火もします。焚火の中に竹を投げ込んで、爆発音を楽しみます。山に山菜をとりにいきました。わらびとヨモギと三つ葉とクレソンと雪ノ下がたくさんとれました。おひたしやてんぷらやヨモギ餅になりました。キャンプ場で木工作や金属加工をしました。

夜は役場の上のヘリポートまで行って星空観察をしました。よく晴れて、しかも今年は新月でしたから、星や星座が良く見えました。天体望遠鏡も用意したので、暗くて見えないかに座の星団や、北斗七星の二重星を観察しました。

また源流祭りでは、４日の夜、花火が上がりました。コロナ前のような大規模なお松焼や山伏のパフォーマンス、和太鼓の演奏は行われませんでした。花火の時間も19時ちょうどから19時15分までのわずか15分間だけ。したがって多くの観光客が集まるというようなことはありませんでした。以前は河原へ降りて堤防の石段に腰かけて花火をみていたのですが、今回はなぜか堤防の内側から河原は立ち入り禁止になっていて、石段に腰かけてということができませんでした。花火は堤防の上か、小菅川にかかる橋の上から見ます。コロナの前と後で変わった部分はありますが、迫力のある花火は充分に楽しめるものでした。

キャンプ最終日は小菅の湯に 10 時の開店と同時に入ってさっぱりします。道の駅で土産を買ったり、ソフトクリームや唐揚げを買ってその場で食べます。昼にはキャンプ場に戻って、お昼ご飯にヨモギ餅。みんなで餅つきをしてつきたてをいただきます。

皆さんのおかげでとても楽しいキャンプになりました。夏のキャンプでお待ちしてます。

＜令和５年度国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」助成を受けて開催しました。＞

『藤農便り』 第36号

宮本茶園　宮本透

藤野に移住して10年目に入りました。藤沢暮らしで使っていた家電製品も寿命を迎える物があり、先日は洗濯機を買い替えました。独居老人にとって大型家電製品買い替えは思いのほか難儀な問題です。近隣のホームセンターには有料の配送・産廃処理サービスが無く、洗濯機購入ではサービスが受けられる店を探すのに苦労しました。アミーユ月曜サロンで話題にすると橋本さんが「隣のスタジオが引っ越しするので部屋を片付けているけれど、冷蔵庫を貰う？」と言われます。20年程前に購入した大型冷蔵庫は故障も無くずっと使っていましたが電気料金も割高なようでこの機会に廃棄処分して、スタジオの物をいただく事にしました。

アミーユ仲間に手伝ってもらい搬送・入れ替え作業をしましたが、大型冷蔵庫は重く老人の力では動かせません。後日息子に年休をとってもらい、古い冷蔵庫を青山にある津久井クリーンセンターへ搬送しました。午前中で作業が終わり、昼食後は息子家族と富士五湖巡り観光を楽しみました。カンボジア人の連れ合いは富士山を間近に眺めて大喜び、訪ねた湖畔毎に記念写真を撮っていました。息子は小さい頃に富士山ドライブをした事を覚えていて、懐かしがっていました。久し振りの家族旅行、きっかけを作ってくれた橋本さんに感謝です。

・春の茶仕事

２月半ばJA神奈川つくい本店から連絡があり、援農ボランティアを養成する農業セミナーの研修受け入れ農家に藤野茶業部が登録されました。２名の受講生が研修を希望し、藤野支店で顔合わせを兼ねた打ち合わせをしました。和田・上岩茶園を案内しながら藤野茶業部の活動を紹介して研修内容を検討し、３月から茶園管理作業を手伝っていただく事になりました。上岩では数年前に藤野茶業部が耕作放棄茶園再生の取り組みをしていましたが、部員減少と高齢化のために活動は中断しています。援農ボランティアと一緒に茶樹を覆った枯草を取り除いて畝間に敷き込み、続いて剪枝機を使って徒長した枝を切りそろえる作業に取り組みました。茶葉摘採に向けて野良仕事が忙しくなるまで根気よく作業をした成果をご覧ください。「日本の里100選」佐野川の茶畑景観復活、新しい仲間を得て再び歩みを進めます。(写真①)

2022年より佐野川茶用荒茶は愛川工場で加工していましたが、茶業運営委員会で昨秋JA県央愛川が荒茶工場を売却し足柄茶生産事業から撤退したので今年度は生葉の受け入れができないと伝えられました。愛川工場は茶葉揉捻技術が高く、消費者から「佐野川茶は美味しくなったわね」と評判がよかったので正に青天の霹靂の出来事でした。春肥・春整枝と茶園管理作業の合間に部会で対応策を話し合ったり県農業技術センターに相談したり、佐野川茶用荒茶製造を引き受けてくれる荒茶工場を探しました。４月になって清川村のJAあつぎチャピュア清川茶工場が受け入れてくださる事になり、茶葉摘採作業準備に安心して専念できるようになりました。

４月19日県農業技術センターの茶園巡回指導があり、各茶園の新芽開葉数と長さを調べて摘採日程を検討しました。昨年は人手不足で茶葉摘採作業が出来なかった茶園があったので、作業人員の確保に全力を尽くして取り組みました。摘採作業は摘採機操作に２名、摘採袋を１名が持って行うのが基本です。２台の機械を使って作業するには６名、茶葉の入った摘採袋を日陰に運び搬送用ネットに詰め替える作業する人が必要で、最低１日７名の作業人員をそろえなければいけません。摘採日程は７日間、ヘルパーの３名は全日仕事を引き受けてくださり家族・知人・友人を加えると作業日毎に7～10名が集まって全茶園の茶葉を収穫できました。(写真②)

摘採翌日に出来上がった荒茶は茶来未工場に搬送しました。早朝から摘採作業の準備をして道具を片付けた後に乗用車で清川村に向かい、荒茶を載せて藤沢市まで届ける日が続きました。昨年は体調を崩して歯がゆい思いをしましたが、66歳になってこれだけ働ける気力・体力がある事を誇りに思います。茶来未の佐々木社長に荒茶の講評を伺い、試飲させていただきました。たくさんの方々に応援してもらい出来上がった今年の佐野川茶、爽やかな苦みと甘みが口の中に心地よく広がり感慨無量です。新茶販売の準備を進めていますので、もうしばらくお待ちください。(写真③④)

①

②

③

④

・野草の天ぷらとお茶摘みの会（4 月 21 日：東京学芸大学　環境教育研究センター）

会場の学芸大には中央本線に乗って向かうのですが、今年は軽トラで彩色園に出かけました。正月頃より国分寺市から荷物を運ぶアルバイトをしています。都内を車で走るなど考えもしなかったのですが、高速道路を利用しなくても藤野から 1 時間半程で国分寺に到着できる事を学習しました。藤野観光パンフレット・茶摘み体験案内等観光協会から預かった資料をたくさん持ち込んで、参加者に藤野を紹介する事ができました。

今年は桜の開花が遅く当日に新芽が伸びているか心配でしたが、彩色園の茶畑は一芯三葉で摘み頃でした。昨年はコロナ禍で 50 名限定申し込みの参加者でしたが、今年は人数制限無しで参加者・スタッフを合わせると 100 名超の大盛況！親子連れが多く微笑ましい光景がたくさん見られました。(写真⑤) 午後から雨降りの天気予報で空模様を気にしながら茶葉を摘む事 1 時間、2.3kg の葉が収穫できました。前日にスタッフが新しい和紙を貼ってくれたホイロで蒸した茶葉を揉んでいきます。子どもたちが喜んで作業に取り組み、助炭にはかわいい手が賑やかに踊っていました。味を出すにはもっと力強く揉みたいと思いましたが一心不乱に小さな手で葉を揉む子どもたちに口出しする事は余計なお世話、黙って見守りました。お土産にいただいた手揉み新茶はアミーユ月曜サロンでいただきました。佐野川茶とはまた違う渋みに青臭さがほのかに漂う香りで、初夏の味を皆で楽しみました。INCH の伝統行事、ずっと続けたいものです。(写真⑥)

⑤

⑥

・春の雑穀畑・花卉畑

冬の間に剪定枝を燃やしていた雑穀畑•花卉畑ですが、3 月下旬～4 月中旬は内郷に出かけて動物堆肥を運びました。肥料袋に約 10kg 入れた堆肥を 35 袋軽トラ荷台に載せて傾斜地の畑に降ろす作業は重労働ですが、真夏に色鮮やかに咲き誇る草花と秋の雑穀収量に努力の成果が得られるやりがいのある野良仕事です。(写真⑦)

雑穀畑を耕耘機で中耕していた時の出来事です。地主の田村さんから電話がかかってきました。何事かと戸惑っていると「そんな浅い耕し方ではダメだ。トラクターを頼んでやるからもっと深く耕せ」と言われます。しばらくするとトラクターがやって来ました。私が額に汗して一日がかりで耕した場所はあっという間に深耕されていきます。畑の耕起は収穫後と植え付け前に行うのですが、管理作業用の小型耕耘機を使っているので地表をひっかく程度です。雑穀栽培講習会でも木俣師から「この畑は土が固いのでもっと深く耕しなさい」と度々指摘されていました。普段から私がしている拙い野良仕事の様子を見守り、救いの手を差し伸べてくださった地主さんに深く感謝いたします。(写真 8)

自宅ベランダでは花苗作りを始めました。最近は老眼が進みアスターの小さな種子をピンセットでつまんでプラグトレイに入れていく作業にてこずっています。これからヒマワリ・ヒャクニチソウを播種しながら植付け準備をします。相模湖・ダム建設合同追悼会実行委員会の吉田さんは今年も生花栽培を一緒に取り組んでくれます。戦後 79 年、米日政府が画策する中国侵略戦争を絶対に許さない思いを込めて花苗を育てます。(写真⑨)

⑦

⑧

⑨

※佐野川での雑穀栽培に興味のある方は宮本（携帯：090-2205-8476
e-mail：kwangjuu1980@yahoo.co.jp）へご連絡ください。

『INCH の楽しい仲間たち』 vol.8　その 24

３度目のアイラ島へ（その５）佐伯　順弘（岐阜県）

Travel planning　2017
DAY7　21th　AUG　ILY★
DAY8　22th　AUG　ILY→GLA★
DAY9　23th　AUG　GLA→MAN→ABU★
DAY10　24th　AUG　ABU→PEK→NGO★

DAY7（21AUG2017）ILY

0630 起床。体調は悪くない。月曜日の朝だというのに、他人から強制されることがないだけで、この爽やかな目覚めはいったいどうしたことだ。ま、これが自由な旅の喜びというものだ。のんびり身支度をしつつ、今日の行動を最終的に決めていく。今日は BRUICH LADDICH（ブルイックラディ）に行く。もちろん蒸留所である。アイラ島到着初日、キルホーマン蒸留所を視察した際にブルイックラディ蒸留所前のバス停を利用したが、日程的に駆け足で回ってしまいそうで、それを回避するためブルイックラディ蒸留所は後日にしたわけだ。
0800 準備を終え、朝食へ。いつものスコティッシュブレックファストをいただく。驚いたことに食堂入室から 5 分で食事がテーブルに届く。既に何日も宿泊しているので、覚えられていたのだろうか。このあたりの対応力が素晴らしい。他のホテルと比較したわけではないが、改めてボウモアホテルの素晴らしさを感じた。
0835 ホテル出発。モウモアホテルを出て、歩道を右に進む。十字路に出たら、左側の緩やかな上り坂の遠くに円形教会見える。右側の緩やかな下り坂の先には海が見える。その海が見える下り坂をゆっくり降りていく。途中に生協があり、その前がバス停である。
0845 バス停に到着し３分も経たないうちに、バスが到着。なかなかのラッキーディだ。ただ、バスがいつもと違う道から現れたのが不思議だった。それから、確か運賃は 2.6GBP のはずだったと思うが、今回はなぜか 2.8GBP だった。値上げか？特別車か？ま、0.2GBP について問いただすのも面倒くさいので止めておいた。それに、バスの運転手もいい感じの人で、決してアジア人を差別したり侮ったりしていないと感じたので余計な緊張を生み出すべきではないと判断した。朝から気分の良い状態がそういった判断をさせたのだと思う。さて、快適にバスは進み、20 分ほどして目的のブルイックラディ蒸留所に到着した。バス停の目の前が蒸留所である。おそらく何人かの従業員がこのバス停を利用していることだろう。もちろん、以前アイラ島に来た時にボウモアの町まで車に乗せてくれた人のように自家用車で通勤している人もすくなくないだろうけど。
0945 ブルイックラディ蒸留所の敷地内に入る。

企業カラーとでも表現すればいいのだろうか。ところどころにパステルブルーを用いたデザインの表示がある。このパステルブルーのボトルもメジャーで、全然ウィスキーらしくないところがいい。革新的なウィスキー企業であることを感じさせる。すぐ、ショップで見学ツアーを予約する。旅日記を書きつつ、時間を待つ。
0955 ツアー料金を支払う。5GBP。（約 755 円）
1000 少し過ぎにツアーがスタートした。
見学コースはとても充実していた。解説ポイントがところどころにあり、理解しやすかった。英語でコミュニケーションできることがいいことだと思えるのはこういう時だ。スマートフォンで翻訳もできる時代なのだから、それを活用すればよいだけのこと。それでも、旅先で自分の技術でそれができることには価値があると感じる。美しい英語でなくともすべてが完璧に理解できなくとも、最低限の意思疎通ができることは素直に楽しいことだと感じる。

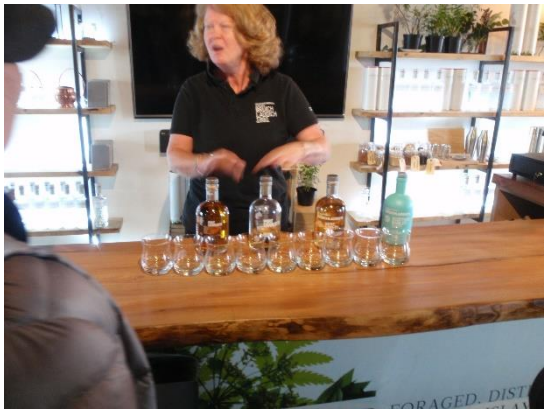
いろいろな形の蒸留装置を置いてあるそうだ。一つの蒸留所で様々な味わいのウィスキーを作っているのだから、自然とそうなるのだろう。最近はジンも作っているので、蒸留所も大きくなる一方だろう。この蒸留所で作っているジンは以前も旅行記で書いた「BOTANIST：ボタニスト：植物学者」である。さらにこれも書いたことがあるが、BOTANの部分が冒探：冒険探検部と読めるので、冒探者、冒探野郎という意味をこじつけられる。つまり、これは冒険探検部公式飲料にせねばなるまいということで私的に制定した。ついでに書いておくと、冒探公式飲料として「五一わいん」、「ズブロッカ」が知られているところであるが、数年前にアイラを訪れた際に偶然出会ったボタニストを勝手に公式飲料として追加したのである。

今はもうその当時の冒探の部室もなく、冒険探検部すらなくなってしまったが、学生の時に部室のこたつで一升瓶の「五一わいん」を飲みながら、次なる冒険の話をしたり、蘊蓄ノートを書いたりしたのは懐かしい思い出である。

蒸留所見学も半ばに差し掛かった。蒸留したばかりのウィスキーは無色透明だが、それが樽の中で熟成される過程を経て、あの琥珀色の液体に変わるのである。巨大な貯蔵庫へ向かう。

貯蔵庫の中には大量のウィスキーたちが静かに眠っている。騒がしくしないというのもウィスキーに敬意を払う人々なら言われるまでもなくすることである。倉庫なのだが決して空気が淀んでいたり、湿っていたりせず人にとっても快適な環境である。

1110 そして、お楽しみのテイスティングである。日本でも見かけることはあるが、あまり多くはないボトルである PortCharlotte2007（ポートシャーロット 10 年）を選んだ。強いがそれほどきつくないピーティな香り。思わず笑みがこぼれるのを感じる。つぎに、せっかくだからと BOTANIST もいただく。自宅にボトルはあるが、この場で飲むことに意義があるのだ。



売店にいくと大学に入学した年に蒸留された 1984 年の BRUICH LADDICH があった。なかなかのお値段である。450GBP（約 68000 円）は道楽ではちょっと買えない。

1157 帰りのバスが来るまで少し時間があるので、近くの BRUICH LADDICH mini-market へ向か

う。

小さなカフェ兼コンビニエンスストアといった感じの店だ。カフェモカ 2.4GBP（約 362 円）実質昼食はこれだけである。朝食はしっかり摂ったし、それほどの運動量はないし、ということで、変わったものがあれば食べるが、空腹でないのに時間だから食べるなどという愚かなことはしないのだ。
1220 バス乗車。ボウモアの町へ戻る。
1257 生協で水 0.65GBP、絵葉書、切手、ウィスキーの本 12.83GBP
1300 ホテルに戻る。本日の基本ミッションは終了である。夕食まで休養。優雅な旅行なので、ガツガツ、キツキツの日程など組むわけがないのである。とりあえず、寝る。
1744 よく寝た。忘れないうちに現時点の会計をメモする。寝起きでも頭はすぐ起動する。
1830 まずは Bar に向かう。Ale を 1 パイント。

Haddock goujon(タラのフライ)を前菜として。

このスターター、軽い前菜と思ってオーダーしたら、なかなかの量。本当においしい。
1922 メインの Irish Stew。おいしい。だがしかし、ついに、この日が来たか。あまりに多くて、残してしまった。ビールとポテトを少し。前菜が少し多すぎた。前菜とメインの両方は 1 人で注文するものではないようだ。

DAY8（22AUG2017）移動日 ILY→GLA

0700 起床。雲量 9、しかも黒い。昨夜あれほど食べたにも関わらず、腹具合は快調である。快腸と書くべきか。排出も十分である。
0840 朝食へ。今日は約 4 分で提供された。
0903 部屋に戻り、シャワー、パッキング。食堂で絵葉書を書く。チェックアウト。諸々込みで 485.05GBP。その後、キャビンゼロ（バックパック）を背負い、ホテル出発。今回も居心地の良い滞在であった。ボウモアホテル。まさに定宿と呼ぶべきホテルだ。葉書を投函、バスの待ち時間であたりを再度探索する。水を買う。
1126 定刻通りバス出発。アイラ空港へ。約 10 分で到着。しばらくするとチェックインが始まった。時間に余裕をもって行動しているので空港でものんびりしていたが、定刻になっても搭乗が始まらない。なんだかおかしいぞ・・・。
1344 まさかのノーフライト！グラスゴーからの便が欠航。当然折り返すアイラからグラスゴー便も自動的に欠航！次の便は 1830 になるという。日程崩壊である。帰る段になってとんでもないトラブル発生である。日本に帰ることができるのか？！若干パニックになりそうだったので、心を落ち着かせるために「食う」。チーズバーガー&ペプシ 6.9。グラスゴーからの乗り継ぎ便、マンチェスターでの

ホテルがアウトなので、電話で状況を説明し、なんとか損害を最小限にしようと全力を尽くす。しかし、エアチケット、ホテルともに解決できず。いわゆる、終わったという状況にはまり込んだ。空港にいた人々はどんどん減り、ここにいても仕方ないのでとりあえず、ボウモアの町へ戻る。ボウモアの海を見て、心を落ち着ける。大丈夫、海はつながっている。きっと帰れる。泳ぎは得意だ。
1600 空港で情報を集めなければならないと思いなおし、空港へ向かう。雨が強くなってきた。カウンターで相談するも「Try」とか言われ、全然見通しが持てない。ただ、チケットは有効のようだ。常に満席なわけではないので、乗れるのだろう。
1745 セキュリティーチェック。1810 祈りつつ待つのみ。そして 1820 あっさり搭乗。離陸。
1900 グラスゴー着。アイラ島脱出に成功。しかし状況が好転したわけではない。グラスゴー空港に到着してからも大変だった。とにかく、グラスゴーからマンチェスターへの便に乗れなかったので、日本行の便が出発するマンチェスターへの足を確保しなければならない。空港案内所でも解決せず、なぜか身体障碍者サポートに回され、また案内所。いわゆるたらい回し？粘り強く状況を説明したらもう一度 Menzies というデスクで相談しろとのこと。先ほど通ったが誰もいなかったのに？もうやけくそ気味に、カウンターで誰かいないかと呼んでみる。すると係員が出てきて話を聞いてくれた。するとなんとか解決。2000 年のアメリカでの機体不具合事件以来の英語で交渉しまくりの案件であった。(後で調べたら、Menzies Aviation 社は 6 大陸で事業を行う世界最大の航空サービス会社の 1 つだった。）明日の朝一でマンチェスターに行き、日本行 0900 のフライトに間に合わせるとのこと。追加料金などはなし。そりゃそうだ、こっちのミスじゃない。今夜のホテルキャンセルは予約会社に言えとのこと。ヒルトン 15000 円だったのに。すでにチェックインの時間も過ぎているので、キャンセルは難しいだろう。とりあえず、事情を説明したキャンセルのメールも送ったので、あとは成り行きというところだ。で、今夜はどこで寝ようかとまたまた案内所のおばちゃんに相談した。いくつかのホテルに電話してくれたが、どこもこの悪天候のフライト混乱によりいっぱいだとのこと。しかし、この冒険らしい日本人の風貌を見て、素晴らしい提案をしてくれた。2 階フロアのカフェのベンチで寝られるらしい。了解。日常茶飯事だぜ。一安心したら、急に空腹を感じだ。ピンチは腹が減るものだ。すぐそばのレストランに入る。
2042 黒ビールとハギスで夕食をすます。カフェの営業時間終了まで時間をつぶしてから、目的のカフェへ向かうと、既に先客が多数。とはいえ、広い店だったので、横になれる快適なソファーを確保することができた。敵の接近を警戒しながら、森で眠ることには慣れている。こういうところでもしばし体を休めることは簡単だ。

DAY9（23AUG2017）移動日 ILY→GLA

0245 起床。自然と目覚めた。アラームより 15 分早く起きた。そのおかげで、周りの旅人に迷惑をかけなくてよかった。5時間ほどは休めただろうか。葉書の投函、ネットでメールの確認。旅日記を書き、所持金の確認をする。
0445 マンチェスター行き、乗り継ぎ便の最終目的地名古屋行きのフライトのチェックインを終える。とりあえず帰ることができそうだ。
0500 搭乗ゲートに向かうためにセキュリティーチェックを通過するも、搭乗ゲートの表示がまだ出ていない。昨日からの風雨が強く、嵐の様相を呈している。マジか。急に心配になる。
0630 グラスゴー発マンチェスター行きに搭乗。マンチェスターでは 1 時間の乗り継ぎ時間。ひたすら速足で「トランスファー」の表示を探す。
0847 マンチェスター発アブダビ行に無事搭乗。
1120 機内食。ラムとライス。好きなメニュー。
1605 アブダビ着。アブダビ時間に変更 1905。
2015 アブダビ発。アブダビ時間 0500 北京着。北京時間に変更。0900。約 1 時間の駐機。
（ロンドン 0200　アブダビ 0500　北京 0900）
1000 北京発、1300 名古屋着。日本時間 1400。
学生時代のような旅の終わりであった。（終）

たのしい村暮らし　その 1～おいしい草編～

小菅村に暮らすようになり、気付いたら 17 年目になりました（！！）この村で暮らすこと、楽しみ方がやっとわかってきたように思います。

今回はそんなわたしの村の楽しみ方を少しお裾分けします。

毎日のようにお散歩をしているといろいろな植物が目につきます。その中でもやっぱり食べられる草が好き！採って楽しい、食べて美味しい！

ノカンゾウ
（ヤブカンゾウ）

ふきのとう

のびる

とときき
（ツリガネニンジン）

アミガサタケ

コシアブラ

こごみ

タラの芽

わらび

ハリギリ（アクダラ）

せり

クレソン

野生のアスパラガス

みつば（with 竹）

春はあまり野菜を買いません。その辺の草が美味しいから！キャベツが 1 玉 500 円を超える時代･･･。みんなもっと美味しい草を知ればいいのに！と思わずにはいられない今日この頃。この山菜・野草たちは全て小菅村に来てから覚えました。めっちゃ楽しい！今日も食べられる草パトロール行ってこよー。

（はるこ）

植物と人々の博物館　Vol.35

Plants and People Museum

西村俊　自然文化誌研究会理事

　山登り、川遊び、キャンプなど、野外活動が楽しめる季節となってきました。田畑でもたくさんの人々が農作業をする風景を目にするようになりました。

・３月末に民族植物学ノオト 第 17 号（2024）を発行しました。紙媒体での配布はありませんが、ppmusee ホームページ上で PDF としてすべての記事をダウンロードすることができます。ぜひご覧ください。次号（第 18 号）は年内まで原稿受付け、2025 年３月末に発行を予定しています。（広義に）民族植物学・環境学習に関連する調査や実践の記録、ご意見などを自由にお寄せください。

・植物と人々の博物館の今後に向けて、書籍・資料の充実を図っています。食文化関連書籍、海外調査の中で収集した書籍、西川至先生の書籍の追加、雑穀・小金井関連の書籍の寄贈などを受入れています。所蔵する書籍の整理（リスト作り、番号貼付など）にご協力頂けるとうれしいです。原則、月曜日の 10:30～14:10 に開館し、整理作業日としています（担当：木俣 kibi20kijin@yahoo.co.jp ）。

・第 35 回日本環境教育学会大会（江戸川大学、2024 年８月 29 日～９月１日）において、関連する一般口頭発表と自主課題研究の提案を予定しています。関連の方々は、是非会場でご議論下さい。

・今年、雑穀栽培を始めたい方には種子を差し上げます（担当：木俣 kibi20kijin@yahoo.co.jp ）。

・宮本茶園での雑穀畑（見本園）も継続し、種継ぎなどの実習も受け入れています。作業予定などについては、お問い合わせ下さい（担当：宮本 kwangjuu1980@yahoo.co.jp ）。

○YouTube の紹介

・佐々木正久さんの YouTube「まー君のナチュラルライフ」では、今回の「冒険学校むらまつりキャンプ」も紹介しています、チャンネル登録よろしくお願いします！！

・樹木医の岩谷美苗さんも YouTube を開設しています。「樹木医の偏った植生活」です。
QR コードからぜひご覧ください。チャンネル登録よろしくお願いします！！

○事務局の麗しき日々

・めいちゃんとこはるんは卒業して就職したもよう。
・おんたまは進学、ノリは留年したもよう。
・久しぶりの留年生におじさん達は歓喜しているもよう。
・就職したひなたは静岡方面に存在しているもよう。
・ヤスさんはちょっと早めの退職をしたもよう。
・佐伯さんももうすぐ定年の年齢に達するもよう。
・ひるまんは副校長になったもよう。
・平田大ちゃんは育休中のもよう。
・ふかちゃんとウチの子が冒険学校デビューしたもよう。
・ハルトがスタッフデビュー！高校生スタッフ大歓迎です！

『タイ環境学習キャンプ』　8.17～8.25　参加者募集！！

今年もタイ環境学習キャンプを実施します。バンコクの北西にあるバンライという地方都市で環境学習を行なっているシリポン氏が主宰しているバンダキャップを拠点として、野生生物の観察やワークショップなどの活動を展開します。（詳細については、ナマステの記事を参考にしてください。）

日時：８月17日（土）～８月25日（日）

訪問先：バンコク、バンライ、ファイ・カ・ケン野生動物保護区など

内容：ファイ・カ・ケン野生動物保護区での野生生物の観察、環境学習の実情視察、アウトドア体験。カレン族、ラオ族など少数民族の村の訪問、交流等バンライの教員、生徒とのワークショップ

費用：２０万円

連絡先：中込貴芳（自然文化誌研究会副代表理事）

Tel；090-8856-8788

Email; nakagomikiyosi@hi-ho.ne.jp

参加希望のある方は、６月15日までに中込まで直接ご連絡をください。

※費用についてはあくまでも目安です。最近の円安の影響で上振れする可能性があります。

INCH まつり（ライブ）開催のおしらせ

秋の一大イベント「INCH 祭り（ライブ）」を開催予定で進めています！ライブをＢＧＭに、のんびりとお酒、お茶でも飲みながら過ごしませんか！！　音楽を愛する方は楽器持参で、腕に自信のある方もない方も、歌わない方も、お酒を飲まない方も、久しぶりの小菅村の方も、ぜひぜひお越しください♪　音楽しない方はのんびりしていても、もちろんOKですよ～♪

冒険学校スタッフの普段見られない姿にも出会えますよ♪

■日程 10月５日（土）16:00 開演～10月６日（日）日帰りもOK

■対象：どなたでもOK（子どもだけでの参加はできません）

※次号のナマステ 155 号で詳しく案内します！

○　自然文化誌研究会　一緒に活動しませんか？

略称 INCH（インチ）。冒険・伝承・創造をキーワードに『国際的な視野で人間をとりまく自然と文化を野外において探求する野外環境教育のパイオニア』として、40 年以上にわたって活動を続けています。2004 年から NPO として再出発し、活動の中心を山梨県小菅村に移し、子どもを対象とした『冒険学校』や市民を対象とした『のびと講座』『ELF 環境学習中堅指導者養成講座（のびと研修会）』などの山村の自然や文化を学ぶ活動を通じて、持続可能な社会を形成していく上で必須である環境学習の実践と農山村の振興を実現させるため、エコミュージアムづくりを行っています。本会の運営は会員の皆様のご協力と、会費で成り立っています。ぜひとも会員の輪を広げていき、納入をお願い致します。本会の趣旨に賛同いただける方なら、どなたでも会員になれます。なお、正会員のみが総会における議決権を持ちます。それ以外の会員は、総会にオブザーバー参加となります。会費は年額（1～12月）です。また、皆様からのご寄付も募っております。

正 会 員：10,000 円　一般会員：5,000 円　学生会員：3,000 円

賛助会員(個人・団体)：10,000 円　家族会員：6,000 円

植物と人々の博物館友の会会員：3,000 円

雑穀街道特別会員：１口 1,000 円から

・成合基金（冒険探検基金）：「成合基金」とご記載してください。

・寄付：「寄付」とご記載してください。

❶郵便振替口座　：　00100-2-665768

口座名　：特定非営利活動法人自然文化誌研究会

❷ゆうちょ銀行：店名 ００八　普通口座

口座番号　９４７９４５０

口座名　：特定非営利活動法人自然文化誌研究会

ナマステ 154 号

特定非営利活動法人　自然文化誌研究会　会報誌

＜発行日＞2024 年５月20日

＜編　集＞自然文化誌研究会　事務局

＜発　行＞　　特定非営利活動法人

自 然 文 化 誌 研 究 会

The Institute of Natural and Cultural History

＜事務局＞〒409-0211 山梨県北都留郡小菅村 3337-2

TEL：090-3334-5328（事務局 黒澤）

E-mail：　npo_inch@yahoo.co.jp　←↓変更しています！！

ＨＰ：　http://www.npo-inch.ppmusee.org/index.html